

ペット同行避難の受け入れ体制の整備について考える

避難してくる住民等の中には、必ず一定の割合でペットと「同行避難*」してくる人が含まれます

*同行避難:ヒトと動物の双方の被害を避けるために動物を連れて行う避難行動

① ペット対策の必要性を考える

Q. なぜ同行避難が必要か？

⇒同行避難できないと …避難をためらう・置き去りにする・危険ななか家に戻る・野に放つ

A. 飼養者だけでなく、被災社会全体が安心安全に避難するために重要なことだから

Q. なぜ対策が必要か？

A.適切に準備と管理がされなければ、動物にまつわるトラブルが発生する恐れがあるから

〈過去に報告されている主な問題〉

糞尿の悪臭、無駄吠えによる騒音、毛の飛散による汚染、アレルギー体質への不安

② 地域の状況を把握する

・学区内の飼育状況 参考)畜犬登録 北小学区792頭、南小学区1003頭、市内合計6225頭

・避難所の状況

・受入対象動物 犬・猫・小鳥・小動物

③ 検討する(スペース・条件・飼育ルール)

ペットの受入スペースを考える

受入場所 ペット受入スペースの選定 … 雨風を避けられる・逸走を防ぐことができる
ケージ等の配置について … 動物種類ごとに犬・猫・小動物など分離する

- ✓ ペット受入場所の条件 … 騒音・悪臭・衛生面を考慮する
- ✓ 居住場所を区別する方法 … 人間と動物を分離 / ペット連れとペット無しで分離=(同伴避難)
- ✓ 浸水する可能性 … 使用できない場合の代替地を考慮しておく
- ✓ 車中避難 … 動物の居場所として適するが、飼主の車中生活は推奨せず
- 補助犬 … 動物として分離するが、様々な場所への同伴に便宜を図る必要あり
- ケガや病気 … 最寄りの動物病院が対応

受入条件と飼育ルールを考える

・受入条件の検討

・対象動物と受入れ数

・受入 → 動物情報の収集(個体識別と飼主情報の明示)

☆ 受入不可条件… 人に危害を与える可能性がある状態の動物は×

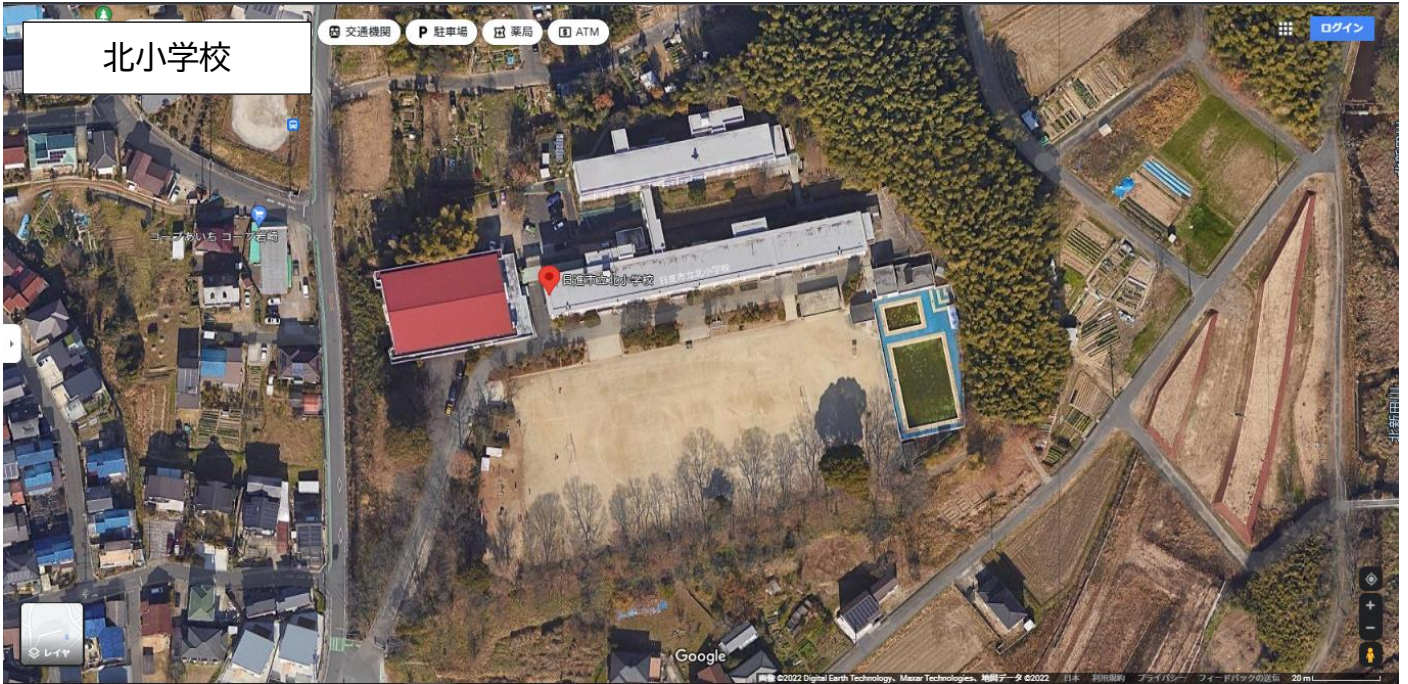
・飼育ルールの検討

飼主会 … 飼主同士の共助を推進⇒個々の負担軽減

ペットの世話 エサやり・無駄吠え対応・糞尿や抜け毛対策・周辺清掃

☆「受け入れできない」と判断するとき

*同行動物の滞在が不可能な場合は、代替移動先を紹介出来るまで安全な場所に待機させる



飼育スペースの検討(屋外)

人の居住に向かなくても、風雨がしのげて活用可能な場所がある

- 駐輪場 ○グラウンドの一角 ○渡り廊下 ○物置や車庫 ○建物の軒下
- サッカーゴール、渡り廊下、遊具や鉄棒、フェンス、キャンプ用のミニテント

飼育スペースの検討(屋内)

○避難者の動線と交わらない場所 ○鳴き声や臭いが届きにくい ○飼主がそばに待機できて目が届く場所
居住区画にならない1室、裏口の風除室、階段下や踊り場

・・・汚染防止のため、ペットスペースはブルーシート敷きで養生した場所を指定し、ケージ飼育を原則とする